



イラスト：大城旋律（孫）

## 辺野古はウクライナへと続く戦争の道

石原艶子

○悪を行う者は皆、光を憎みその行いが明るみに出されるのを恐れて、  
光の方に来ない。（新約聖書 ヨハネ伝 3：20）

○無垢であろうと努め、まっすぐに見ようとせよ、平和な人には未来がある。  
（旧約聖書詩篇 37：37）

◎障害者は戦争のない平和の中でのみ生きていける。だからこそ平和を担  
う世界市民となれるはず。（筋ジストロフィー詩人 岩崎航）

◎沖縄は日本のしっぽではなく、頭として下さるよう切に祈る  
（矢内原忠雄）

埋め立てが進む辺野古と土砂搬出港の安和と塩川での抗議行動をしていると、この場所がウクライナへとつ  
ながっていることがはっきりと見えてきて心が苦しくなる。私は今すぐ戦争はやめて!!と心の中で泣きなが  
ら叫んでいる。子供や女性達、高齢者、病を負った人たちが犠牲になっている。あの愛らしい子供達を不幸  
にし、命を奪う戦争を私は絶対に許すことは出来ない。抗議行動の中で私は声をからしながらゴスペルを歌  
っている。

♪このこどもたちが 未来を信じ つらい世の中も 希望にみちて 生きるべきいのち 生きていくため  
主よ、守りたまえ、平和を、平和を

♪戦いあらいここにかしこに 地をとどろかして 燃えさかるとき 子らは泣き叫ぶ 血を流しつつ  
主よ、とどめたまえ、いくさを、いくさを

♪「剣を鋤とし 槍を鎌とし 洪水のように 正義を流せ」 神のみ言葉は 世界にひびく 主よ、教え  
たまえ、み旨を、み旨を

♪このこどもたちの 未来を守り 生きるべきいのち 共に生かされ 平和をよろこぶ 世界をのぞむ  
主よ、祝したまえ、大地を、大地を

抗議行動自体が私の祈りとなってしまった。命どう宝、戦争は絶対に駄目、戦争につながるこの基地建設は  
絶対にしてはならないこと。ここに立っている警備員の一人一人に、土砂搬入にかかわる人たちに、警察官、  
防衛局の方達と同じ人間として語りかけ、呼びかける。人間は誰でも心を持っている、人間としての優しさ  
も持っている。人間と人間だからその心に向って呼びかける。命どう宝、NO WARと何度も何度も歌い  
ながら訴え続けている。安和港では2～3人の時もある。こんなに少人数であっても私たちは諦めない。い  
つも一緒のうるまの友人は「海は泣いている」と何度も何度も訴え続けていた。その声を聞いている内に泣  
いている海の声が聞こえてくるようで悲しくてたまらない気持ちになった。削られ壊されていく無残な山の  
姿、そして埋め立てられて死んでいく辺野古の海を思うとたまらない気持ちになって思わず、♪海は泣いて  
いる～海は泣いている～と即興の歌が自然に湧き上ってきて歌っている私がいた。巨大な国家権力が沖縄の  
民意を踏み潰して新基地建設を強行している現場は何と過酷な事でしょうか。あまりにも少数者の私達は弱  
者です。然し、弱者である私達がもしここに一人も存在しなかったとしたら、悲しい歴史が刻まれるでし  
ょう。沖縄にはここで歌い抗議する平和を祈る無垢でまっすぐな人々が戦っています。その事実が重要であ

て、後の時代の人々はこのような人達が戦っていたことからきっと大切なことを学ぶでしょう。私たち一人一人の存在はとても重く、歴史を築き、後の時代の平和へとつながっているのです。負けているようで実は私たちは勝っているのです。不屈の一人一人は輝いています。だから少人数であろうと互いに励まし合い手をたずさえて、希望に溢れて抗議行動に出かけて行くのです。そして世界中の私達と同じように平和を求めて非暴力で闘う、まっすぐな人々が手をつなぎ地球を取り囲んで、武器を捨てると叫び、戦争をしない平和な地球家族になれるようにと切に願い祈るのです。

○何故ロシアとウクライナの戦争は止められなかったのでしょうか。政治家は事あるごとに国民の命と財産を守ることが責任だと言いますが、戦争は国民殺しなのですからリーダーは絶対にしてはならない事なのに、国民を守るために武器を持つという真逆な事をします。正しい戦争なんてありません、戦争に勝者はなく破壊と殺戮、憎しみを生み出します。そして暗く長い歴史の始まりとなります。アメリカもまた他国への武力行使を正当化してきました。ある人がアメリカという怪物に立ち向かってきたロシアが自らも怪物になってしまったと言っていた通りだと思います。複雑な心を持った怪物が暴れ出したのですから静めるためにはゼレンスキー大統領が命を差し出す覚悟でプーチンの要求を聞き話し合い、戦争だけはしないという道を必死で捜すべきだったと私は思います。プーチンは70歳、病气持ちとのこと、プーチン統治の時は長くはないでしょう。時を待ちつつ戦争をしない道を選び待つこと、プーチンの要求を受け入れ、NATOに属さない中立国、武器を持たない非武装国家として西と東をつなぐ緩衝国となる道を選んだらウクライナの人々の命もロシア兵の命も失われなかったでしょう。命どう宝の心は一体どこにいったのでしょうか。

○狂った怪物を静める役割を担う人は、神に仕える宗教者、信仰者であるはずですが。ここに人々は希望を持つのです。然し、ロシア正教会はプーチンのお仲間、一体である。独裁者の悪を容認している。政教一体の悪の恐ろしさ、宗教者の罪深さに失望。

○保守政治家の方々は、今にもロシア、中国、北朝鮮が日本に侵略戦争をしかけてくるかのように煽動し、ウクライナ危機を利用して軍事費を2%以上に、平和憲法を改悪して戦争出来る国へと悪を企んでいます。安倍元総理を中心とした政治家、学者達が背後で力を拡大している。この日本の危機を私たちはしっかりと目を見開いて見張っていかなくてはなりません。彼等の欺瞞を見抜き、決してだまされてはなりません。彼等は自分は安全地帯に身を置きつつ、ウクライナの現状を見ても尚、戦争が何かを全く分らないおめでたい人々であって**軍需産業**に属する人たちです。人類は愚かさの故に自ら不幸を作り出し、滅亡へと向っているかのようです。第三次世界大戦を絶対に起こさないために、核兵器が使われないように必死に祈りつつ、辺野古新基地反対の闘いの現場に立ち続けている私達は平和を愛する日本各地の皆さんと世界の皆さんと連帯して頑張っています。多様性豊かに創造された人間、神に愛されている人間だから絶対に共に生きる地球家族になれるのです。

## ◎ビルマ（ミャンマー）を忘れないように

国軍によるクーデターから1年以上が経過したビルマは内戦状態に陥って泥沼化しています。国軍に反対する多くの人々は政治犯として拘束、起訴、投獄されています。国軍の激しい弾圧の中で、平和的なデモ活動をしていた若者達は弾圧がひどくなると、少数民族武装勢力の支配地域に逃亡してその一部は武装蜂起して国軍側と激しい戦闘を繰り広げ、まるでベトナム戦争を想起させるようなゲリラ戦をしています。私はどんなに弾圧が激しくてもあの平和的デモ活動をしていたあの若者達には武器を持ってほしくありませんで

した。武器を持てば人は変り、人を殺す者となり、結果的に国軍と同じことをする者となります。武器で平和は来ないので。どうしたらビルマ（ミャンマー）に平和はくるのでしょうか。ウクライナばかりでなくビルマのことも忘れないで平和を祈りましょう。

◎アフガンのこと、シリアのこと、チェチェンのこと、ウイグル人のこと、何と世界には数えきれない不幸があることか。何故大国は少数民族を抹殺するのか。日本が憲法 9 条を生きるならば世界の国々の平和のために出来ることがあるはず。地球は人類の殺し合いのために破壊され、泣いています。

◎「人の振り見て我が身をふり直せ」 子供の頃母から良く聞いた言葉です。ロシアのプーチンがアフガン、チェチェン、シリア、そして今ウクライナで行っている暴力を見て私達日本人は何を思いますか。過去において日本人が朝鮮、中国そしてアジアの国々を侵略しそこで行った大量殺人の残虐行為、婦女暴行殺害、人体実験などの暴力を忘れたとは言わせません。プーチンは私達日本人の心の内にも住んでいたのです。今、日本に求められていることは、プーチンを見て我が身のしてきた事実と向き合い、己の罪を認めて謝罪して韓国、中国との関係を回復することではありませんか。間違っても平和憲法を変えることではありません。

### 屈辱の日（4月28日）と復帰50年

サンフランシスコ講和条約（1951年）から70年、日本の独立と引き換えに沖縄が日本から切り離されて米軍統治が始まった日です。敗戦国日本は勝者国アメリカに沖縄を差し出し事実上沖縄を捨てたのです。そこには天皇メッセージ「沖縄は主権は日本に残したまま25～50年それ以上米軍に提供したい」という天皇の意向があったと言われています。こうして米軍は他国から干渉されずに、沖縄に建設した基地を自由に使用する権利を手に入れました。この日から沖縄の主権は奪われて、日米両政府に利用されて今日まで続く苦難の道を強いられてきました。この4月28日をこそ、私達は沖縄の主権をとり戻すための決意を新たにす日としなければと私は思います。そのためには沖縄のチムグクル、アイデンティティーの下にひとつ結び合わされて、民族としての声を上げなくてはなりません。然し2022年の今、本土化が進み沖縄のチムグクル、アイデンティティーは消え入るばかりです。沖縄はどこに行くのでしょうか。4月28日、沖縄の歴史を変えてしまった戦争の事実と向き合いNO WAR、命どう宝の日としたいと強く強く願いました。

**復帰50年**——国は記念行事を計画していますが、それらはすべて沖縄への真心ではなく、政治利用のために他なりません。私達には喜びも高揚感もなく、失望感が漂うばかりです。この50年で本土との同化は進み、独立を求める声も主権と自己決定権を求める声も弱く、消え入るばかりです。あの地獄の地上戦を体験したウチナーは、戦後77年の歴史の中で戦争がもたらしたひとつひとつの結果を引き受けて、乗り越えて生きてきましたが、国は沖縄を我が身の一部とは思わず利用し続けてきました。これらの現実と向き合うなら、私達には失望の復帰50年としか言えません。何故、ウチナーはあの時、あれほど強く日本復帰を願い求めたのでしょうか。アメリカ統治下の苦難の中で、平和憲法を持つ日本に帰りたく願ったことは当然だったと思います。然し、基地のない平和な沖縄を夢見た復帰でしたが、何ひとつ変わることはありませんでした。ウチナーの希望は情け容赦もなく踏みにじられ形だけの復帰となりました。これこそ第二の琉球処分でありました。そして復帰50年の現在、国と沖縄は対立し、辺野古新基地をめくり裁判闘争までしているのです。復帰したことは良かったのか、何故復帰運動はあれほど燃えたのか、今、その歴史の検証をする人達がいいます。米国の沖縄長期占領、軍事基地政策が明確になる中で、根底には皇民化教育の感化があり、同一民族とする日琉同祖論的思考が強まってきました。そして祖国でもないのに日本を祖国として救いを

求めたのでした。アメリカだけが沖縄を苦しめる当事者として糾弾されて、糾弾のほこ先を日本に向けることはありませんでした。日本への免罪の背後にあるものは、日琉同祖論、日本同化意識であり、今日の困難を招き入れた元凶は私たち自身であったのでした。裏切られ、投げ捨てられても尚、日本にしがみつき、経済的支援を求めるウチナー、この時から既に現在の沖縄の保守政治家達の勢力拡大は始っていました。「命どう宝自己決定権の会」の与那嶺義雄さんは指摘されています「皇民化、日本同化のワナから脱け出せない私たち自身の歴史認識の弱さをこそ屈辱として捉え直すことが必要であり、今日の困難を招き入れてしまった元凶は私たち自身である」と。復帰 50 年の今、軍事基地化と貧困の固定化は復帰の失敗と破綻を意味しているのかも知れません。ではどんな道を沖縄はとるべきだったのでしょうか。歴史の検証をどうしたら生かせるのでしょうか。国家権力は沖縄のすべての抵抗を押し潰して国家の目的を果たしていくことに変わりはないのです。美しく輝く沖縄の島々は、二度と戦争だけはしないでね!! と今も訴え続けています。復帰 50 年のこの日、日本中の平和を愛する人々と共に「NO WAR、命どう宝!!」と大きな声で辺野古の海に向かって叫びましょう。復帰 50 年こそ平和をつくる一人一人の決意と祈りに他なりません。

◎復帰前の沖縄の思い出—— 私たちは 1965 年に東京で結婚して、その夏に里帰りしました。パスポートを作り、何やら分らない予防注射を受けて、鹿児島から乗船しました。一昼夜かけてようやく那覇の港に着きました。船酔いで苦しく、遠い遠い別世界に来たようでした。下船するにも手続きに長時間を要し、ようやく沖縄の土を踏みました。美里村（今は沖縄市）は絵、写真で見ていた沖縄の原風景そのものでした。あの時初めて見た夫の故郷沖縄は、私の脳裏に焼きついています。そして沢山の戦争の傷跡を見ました。この時から沖縄戦は私の体の中に住みつき、命どう宝の今の闘いへとつながっていたのだと思います。あれから本土に 25 年、そして西表島に 20 年暮し 2010 年に故郷に帰ってきましたが、里帰りする度に沖縄は変わり続け、復帰 50 年の今、私の脳裏に焼きついていたあの原風景は消え失せました。さとうきび畑には本土と同じ商業施設が立ち並び、埋め立て地には海中道路、公園、そして父が塩田事業をした大切な泡瀬干潟も半分は埋め立てられてしまいました。復帰 50 年、急速に変わった沖縄、本土資本に吸い上げられ、製造業も育たず観光業と基地の沖縄、そしてものすごい車社会となりました。それでも私達は沖縄が大好き、沖縄の人が大好きです。子供達も西表島に長男、そして沖縄本島に 4 家族が暮して沖縄に根を下しています。今にして父の言葉が蘇ってきます。「自分の拠って立つ所を深く深く掘り下げなさい。」命は孫達へとつながっています。

○沖縄はまもなく梅雨入りとなります。月桃の花が咲き始めました。野の白百合も沢山咲いて沖縄の五月を喜び彩っています。西原町に復帰 50 年の記念事業として「月桃」の歌碑が建立されました。作詞作曲は海勢頭豊さんで 6 番までの歌碑です。私の「月桃通信」に祈りを寄せて下さる方々と共に 5 番と 6 番の歌詞を御紹介して、共に歌いたく思います。

♪六月二十三日待たず月桃の花散りました 長い長い煙たなびくふるさとの夏

♪香れよ香れ月桃の花 永遠に咲く身の花ごころ 変わらぬ命変わらぬ心 ふるさとの夏ふるさとの夏

〈連絡先〉〒904-1115 うるま市石川伊波 1180-5 石原艶子  
携帯：090-4471-1942 Email：yuuwanoie@tg7.so-net.ne.jp

〈振込先〉ゆうちょ銀行 記号：12260 番号：12650271 イシハラツヤコ

